

## 第5回 日露隣接地域生態系保全ワークショップ (概要報告)

### 1 概要

- (1) 開催日：平成31年3月1日 10:30-19:30
- (2) 開催場所：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター
- (3) 主催：日本国外務省、環境省
- (4) 共催：ロシア天然資源環境省

### 2 開催根拠

本ワークショップ<sup>※1</sup>は、2009年5月、日露政府間において署名された、オホーツク海を始めとする日露の隣接地域における生態系の保全及び持続可能な利用のための協力の具体的な方向性を示した協力プログラム<sup>※2</sup>に基づいて開催された。

※1 日露隣接地域生態系保全協力ワークショップ

2010年4月及び2013年2月、ウラジオストクにて、2015年2月ハバロフスクにて、また2016年10月モスクワにて開催されたワークショップに続く第5回目のワークショップ。2009年3月及び2011年5月には、札幌においてオホーツク生態系保全・日露協力シンポジウムが開催された。

※2 協力プログラムの正式名称

「日本国及びロシア連邦の隣接地域における生態系の研究、保全並びにその合理的及び持続可能な利用の分野に関する日本国政府とロシア連邦政府との間の協力プログラム」

### 3 参加者

【日本側】 栗本一輝・八木健治・荒木円花（外務省欧州局ロシア課事務官）、根田聖児（環境省自然環境局自然環境計画課里地里山保全専門官）、常田健輔（環境省自然環境局自然環境計画課環境専門員）、白岩孝行（北海道大学准教授）、桜井泰憲（北海道大学名誉教授）、加藤秀弘（東京海洋大学名誉教授）、三寺史夫（北海道大学教授）、小林万里（東京農業大学教授）、山村織生（北海道大学准教授）、白木彩子（東京農業大学准教授）、志田修（北海道立総合研究機構企画調整部長）、牧野光琢（中央水産研究所グループ長）、垣内あと（通訳）、アレクサンドル・A・チブレヴィッチ（通訳）

【ロシア側】 フォミヌフ・イリーナ・ポリソブナ（ロシア天然資源・環境省国際協力局次長）、クズネツォヴァ・イリーナ・イゴレヴナ（ロシア天然資源・環境省国際協力局二国間協力課専門員）、アバクモフ・アレクサンドル・イヴァノヴィチ（ロシア科学アカデミー極東支部自動化技術・管理プロセス研究所、生物物理学プロセス数学シミュレーション実験室指導員）、カチュル・アナトリー・ニコラエヴィチ（ロシア科学アカデミー極東支部太平

洋地理学研究所地形・生態学研究センター所長)、アンドレエフ・アンドレイ・グリゴリエヴィチ (ロシア科学アカデミー極東支部イリチェフ名称太平洋海洋学研究所水化学研究所主任研究員)、オルロワ・タチヤナ・ユーリエヴナ (ロシア科学アカデミー極東支部ジルムンスキイ名称国立海洋生物研究センター潰瘍微生物実験室副所長兼指導教員)、ブルカノフ・ウラジミール・ニコラエヴィチ (ロシア科学アカデミー極東支部太平洋地理学研究所カムチャツカ支部脊椎動物生態学研究所主任研究員)、ウテヒナ・イリーナ・ゲンナジエヴナ (マガダンスキイ国立自然保護区科学・研究分野担当副所長)、ウシャコフ・エヴゲニイ・ユリエヴィッチ (在日本漁業庁代表者)・ラティポフ・ティムール (在日本ロシア連邦大使館経済班アタッシェ・通訳)

#### 4 プログラム

○開会挨拶 外務省欧州局ロシア課長 宮本哲二 (代読 外務事務官 栗本一輝)  
天然資源・環境省国際協力局次長 フォミヌフ・イリーナ・ポリソブナ

○日本側・ロシア側双方の自己紹介

#### ○セッション1 【海洋物理・化学環境の変化】

- 1.アバクモフ・アレクサンドル・イヴァノヴィチ「海洋の表面に関する衛星データを使用した数学的シミュレーション方法によるロシアの極東海洋における植物プランクトンの状況分析及び生態系の生物生産性の評価」
- 2.カチュル・アナトリー・ニコラエヴィチ「オホーツク海及び日本海の大規模海洋生態系に対する汚染及び気候変動の影響比較」
3. アンドレエフ・アンドレイ・グリゴリエヴィチ「海洋循環の変化が環境のパラメータ及びオホーツク海の水産資源に与える影響」 12:05-12:37
- 4.三寺史夫 (北海道大学 低温科学研究所 教授)「オホーツク海の海洋循環・物質循環と気候変動」

#### ○セッション2 【海洋水産資源】

- 5.フォミヌフ・イリーナ・ポリソブナ「気候変動が魚類及び鯨類に及ぼす影響 (キム・セン・トク氏作成発表の代読)」
- 6.オルロヴァ・タチヤナ・ユーリエヴナ「ロシア連邦の極東海洋の生物的安全性」
7. 桜井泰憲「北日本における最近の気候変化と主な水産資源の動向」

#### ○セッション3 【鰭脚類・鳥類】

- 8.ブルカノフ・ウラジミール・ニコラエヴィチ「ロシア極東における鰭脚類に関する現代研究のレビュー」

9. 山村織生・小林万里「北海道周辺に來遊するゴマフアザラシおよびトドの現況」
10. ウテヒナ・イリーナ・ゲンナジエヴナ「ロシア・オホーツク海タウイ湾におけるオオワシ *Haliaeetus pelagicus* のモニタリング」
11. 大森司紀之・白木彩子・中川元「渡り越冬期の海ワシ類について」

## 5 成果

- 日露隣接地域の海域において気候変動下で生じている海洋生態系変化に関する様々な情報を共有することができ、有益なワークショップであった。
- 今回のワークショップでの発表内容については、日露双方の研究者が要旨を作成したうえで、日露2か国語に翻訳し公表する。
- 今後もこのような活動を継続していくことに日露双方の専門家が賛同した。
- ロシア連邦天然資源環境省国際協力局のフォミヌフ次長より、次回はロシアで開催したい旨の発言があった。